

## 修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	実践基盤看護学分野 看護管理学領域	学籍番号	217601
		氏 名	朝熊 由美
論文題目	看護師長の配置転換に伴う看護管理者としての実践		
キーワード	配置転換 看護師長 看護管理実践 質的帰納的分析 組織の活性化		
<p><b>【研究背景】</b> 配置転換は、キャリア開発や組織の活性化を目的に度々行われており、配置転換に関する研究はスタッフを対象に多く行われている。一方、看護師長（以下師長）は部署を管理する立場にあり、師長が変わっても、患者に毎日同じように医療や看護を提供する責任があり、師長には、業務に支障をきたさないこと、患者の看護やスタッフが負の影響を受けないようにすることが求められる。そのため、スタッフの配置転換に関する研究成果は、師長の配置転換には当てはまらない。配置転換時に師長としての役割が発揮できるまでには1年を要するとの報告があり、多くの診療科を有する病院では、診療科毎に看護の特色があることから配置転換時の師長の看護管理実践は負担が大きいと推察される。そこで、師長の負担を軽減し、前任の師長の成果を継承し、さらに進化させていくためには、配置転換時の師長の看護管理実践を明らかにする必要がある。</p> <p><b>【研究目的】</b> 師長が配置転換時、看護管理者として、どのような観点から部署の現状をとらえ、何を行っているのか、看護管理者としての実践を明らかにする。</p> <p><b>【研究方法】</b> 研究デザインは質的帰納的研究。A県内の300床以上の病院、5施設の看護師長10名に半構造化面接を実施した。インタビューガイドに基づき、配置転換から現在まで部署を運営するうえで看護師長として実践したことについてインタビューを行った。そこから得られた音声データから逐語録を作成し、看護管理者としての実践に関する内容を取り出し、コード化し、意味内容に類似性のあるコードをまとめ、サブカテゴリー、カテゴリーと抽象度を上げ、カテゴリー間の関係性をみた。本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て実施した(通知番号185902)。</p> <p><b>【結果】</b> 研究協力者はすべて女性で、40歳代が多く、セカンドレベル以上の管理者研修を全員が受講していた。師長の配置転換時の実践に関する語りは、問題を明確にする行動として、22サブカテゴリーと《自ら情報を収集する》《間接的に情報を収集する》《師長の価値観》《診療科の知識》《部署内での水平・上下の関係性》《部署内での他職種との関係性》《病院の運営方針の影響》《提供しているケアの水準》《患者に対する受け持ち看護師としての責任感》の9カテゴリー、対処行動として20サブカテゴリーと《直接問題に働きかける》《業務改善に取り組みやすい環境調整》《師長の価値観や看護観》《理論に基づいた判断》《スタッフが活動しやすい部署内外の環境調整》《部署に必要なスタッフの育成》《肯定的側面の強化》の7カテゴリーが抽出された。</p> <p><b>【考察】</b> 看護師長が円滑に配置転換できるようにするには、看護管理に関する様々な理論を学習し応用できるように準備しておくこと、看護師長自身の看護観を熟成させておくこと、次世代の看護師長の育成に取り組んでおくことが望ましい。</p>			